

文部科学省
「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」実証事業

自立を目指す女性のための
“学び直し”を通じた
キャリア支援事業

2018～2019年度
報告書



(公財) せんだい男女共同参画財団

はじめに

本事業は、男女共同参画推進センター及び母子家庭相談支援センターを運営する中で浮かび上がってきた、「学びの経験」と「貧困」をめぐる課題の解決に向けた一歩となることを目指して立ち上げたものである。文部科学省の2018・2019年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」実証事業に採択され、実施の運びとなった。

非正規雇用のシングルマザーや若年無業の未婚女性の中には、不登校や引きこもりなどで通学できなかつたり、妊娠により学校を中退するなど、10代で十分な学びの経験を積めなかつた人も少なくない。学歴の低さがネックとなり、正規雇用の応募資格すらなかつたり、資格取得のための勉強を自力で進めることが難しかったりと、その後の人生にも影響を及ぼしている。

同様の困難・課題に直面している女性は、仙台市だけでなくどの地域にも潜在・顕在している。2年間にわたる本事業の検証結果が、各地域での取り組みにとって少しでも参考になれば幸いである。

本事業に参加してくださった皆様、企画段階から親身に相談に乗っていただき、事業と一緒に作り上げた学習支援担当の一般財団法人学習能力開発財団、対象者を本事業につないでくださった各支援団体の皆様、実証事業として採択してくださった文部科学省に感謝申し上げたい。

令和2年(2020年)3月



目 次

はじめに

1	事業企画の背景	3
2	事業の概要	5
3	実施状況	8
4	参加者の背景から見えた女性の困難	9
5	成果・効果	11
6	課題	16
7	学びの入り口への誘導	18
8	他地域での事業の展開の可能性について	21

当財団が本事業を企画するに至った背景として、下記3点が挙げられる。

(1) 男女共同参画推進センターと母子家庭相談支援センターの連携

平成25年（2013年）、仙台市男女共同参画推進センター エル・ソーラ仙台内に仙台市母子家庭相談支援センターが併設された。これによりエル・ソーラ仙台の女性相談と母子家庭相談支援センターにおける就業自立相談の有機的な連携が図られ、離婚相談やDV被害からの回復への支援を行うとともに、その後の自立に向けた就業支援、キャリア支援につなげることができるようになった。また、この連携を通して、平成29年（2017年）から女性相談の中に、母子家庭の母以外の女性を対象とした就業自立相談「ミ・ソラ」を新たに立ち上げ、就業支援を拡充した。

(2) センター事業から見えてきた女性たちの困難

① 母子家庭の母の問題

母子家庭相談支援センター利用者の中には高学歴でスキルの高い方がいる一方、高校中退や中卒者、未婚で出産を経験した方も少なくない。しかし、いずれの場合も結婚生活での傷つきや、夫からのDV、モラルハラスメントなどの影響で心身の不調に悩まされ、自信を喪失し、自己決定できずに苦しんでいる。また就労していても低収入で、仕事に対するモチベーションが上がらず、自立が困難な状況も見受けられる。

② 若年無業の未婚女性の問題

平成22年（2010年）から平成30年（2018年）まで、仕事が続かない、人間関係に悩んで引きこもっているなどの悩みを抱えた15～39歳までの若年無業の未婚女性（通称“ガールズ”）を対象とした「ガールズのしごと“ゆる〜り”準備講座」を実施した。

講座参加者の約2割は就労経験がなく、10代20代のほとんどが正規雇用での就労経験がなかった。小中学校から不登校で引きこもりの状態が続いていたり、社会に出ることができた人でも、セクハラやパワハラなどのハラスメントを受けて仕事が続けられず、引きこもりになってしまうケースも見られた。

その背景には、学校や職場でのいじめにより、人間関係に自信を持てなくなったり、親子関係に問題を抱えていたりなど様々な事情がある。無業の未婚女性は、固定的性別役割分担意識から就業を期待されず、周囲からも「家事手伝い」とみなされ、就業支援の対象とされにくい層でもある。

③ 共通する困難

これら“母子家庭の母”及び“ガールズ”の事業から見えてきたのは、様々な傷つき経験に加え、10代で十分な学びの経験を得ることができなかったことから、総じて自己肯定感が低く、自力で困難な状況から抜け出すことが難しいという状況である。

年代や置かれた状況にかかわらず、女性は本人の責任のみに帰すことのできない社会の構造的な問題が原因で生きづらさに悩み、貧困に陥る可能性が高い。

正社員の経験があっても、一旦退職すると非正規雇用やアルバイトなど、より条件の悪い働き方になっ

てしまい、再チャレンジしにくい現状がある。学びの経験が積めず、勉強の仕方が分からない人にとって、自力で資格取得のための学習をすることは困難である。

ここ数年求人数が増えているとはいえ、多くは中卒や高校中退などの学歴やスキル不足がネックとなって応募資格さえない。

(3) 事業の必要性

定年が徐々に延長され、誰もが自分らしいキャリアプランを描いて長く働き続けることが可能となっている今、様々なライフスタイルや本人の希望に合わせ、柔軟な働き方を選択できる環境が整いつつある。M字カーブの底上げを目的として、結婚・出産による離職経験のある女性を対象としたリカレント教育等が各地で行われているが、ある程度の学歴及び学力があることが前提となっている。

そうした支援の対象からこぼれ落ちている中卒や高校中退などの女性たちが、10代で十分な学びの経験を得ることができなかったことが原因で、その後の長い人生のキャリアが決まってしまうことのないよう、意欲があればいつでも学び直し、キャリアアップが可能となるような支援が必要である。

以下は、エル・ソーラ仙台、母子家庭相談支援センターで受けた相談の一例である。

事例①

中卒の母子家庭の母からの相談。中学卒業後、理容師として働いたが長くは続かなかった。結婚し、家計補助として様々なアルバイトに就いた。離婚後、子どもを育てながら安定した仕事に就きたいと考えている。准看護師を目指し、専門学校に入るために勉強をしているが、これまであまり勉強をした経験がないため、独学で続けることに限界を感じている。

事例②

母子家庭の母となって今後のキャリアを模索中の女性からの相談。小学校2年生からいじめにあい、小学5年生から中学3年まで不登校。何とか通信制の高校に入学するも中退。学歴コンプレックスを解消するためにも高校卒業程度認定試験を受験したいが、どんな参考書を使えばいいのかわからない。今、子どもと一緒に漢字の書き取りを練習している。

事例③

10代の女性からの相談。本人の面前で父親が母親に対して暴力をふるっていた影響で心身に不調をきたし、小学校から引きこもり。どうにか外に出られるようになったため、将来のために勉強をしたいと考えている。自分に自信がないので人と会いたくないと感じており、夜間中学に通うことも困難。

その他、在学中に妊娠し、学びたくても退学を余儀なくされた女子高生の事例など、潜在的なニーズは高いものと推察される。支援者からは、引きこもりを脱した後の支援がないことが問題であり、学び直しなどを通して自立を目指す支援がなければ、犯罪や性的搾取の被害にあうリスクが高まる危険性があることが聞かれている。また、経済的な困窮やDV、いじめ・ひきこもりの問題などに加え、東日本大震災の影響により、これらの問題がさらに顕著にあらわれており、上記事例は氷山の一角と言える。

(1) 事業の目的

性別役割分担意識に偏らないキャリア支援と、“学び直し”を通じた基礎学力の向上を目指す伴走型の学習支援を並行して実施し、学習意欲・就業意欲の向上及び自己肯定感の高揚を通して、自走する力を身に付け、生き方を選択し、何度でも自らチャレンジできる力を養う。

(2) 対象者

高校中退・中卒者等、10代で十分な学びの経験を得ることができなかった女性
想定される主な対象者は、

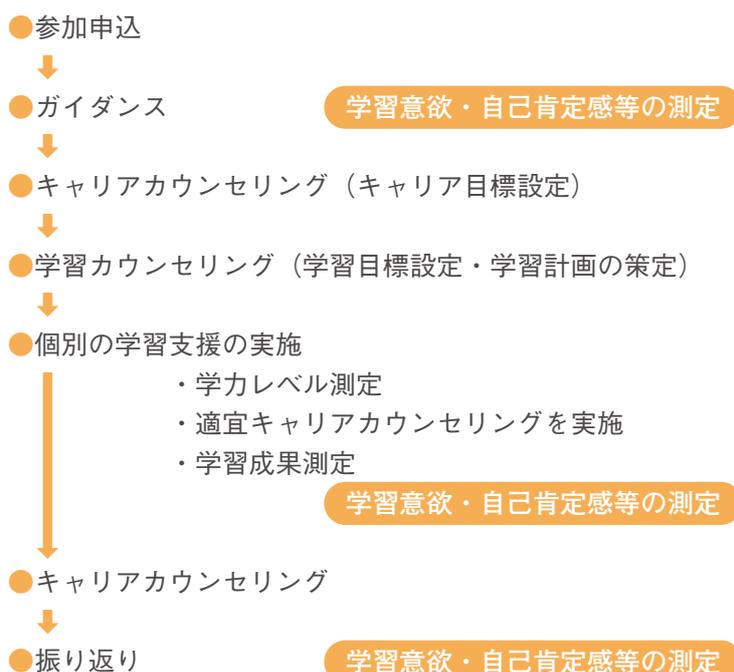
- 就業・転職を目指す母子家庭の母
- 生きづらさ・働きづらさを感じている若年無業の未婚女性 など

学歴と実際の学力との乖離の可能性があることや、対象を限定しすぎないように、参加者の募集に際しては「学びなおしたいと考えている、就業・転職を目指す女性（最終学歴が高校卒業までの方）」とした。

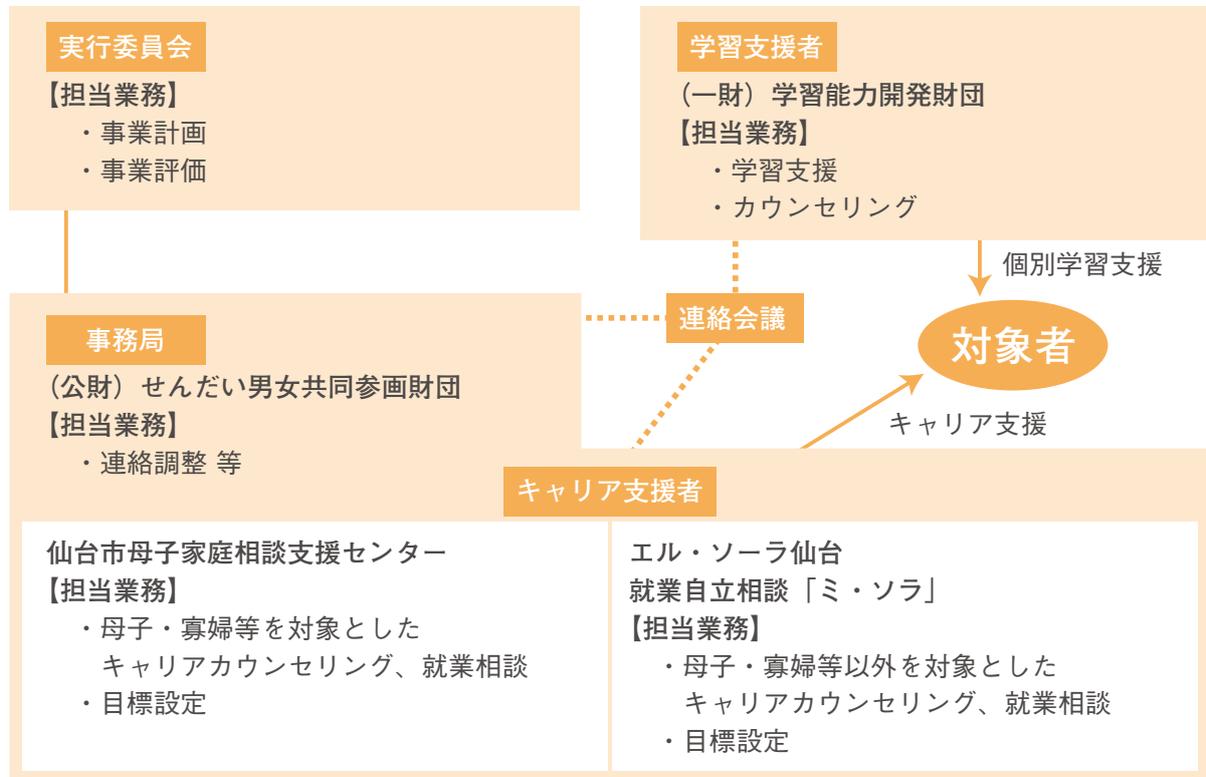
(3) 実施内容

個々の状況に合わせたキャリア目標の明確化と就業に向けたキャリアカウンセリングと、その目標に合わせた伴走型の個別学習支援による学び直しを並行して実施した。

(4) 事業の流れ



(5) 実施体制



(6) 実施方法

① キャリアカウンセリングの実施

(担当：仙台市母子家庭相談支援センター 就業自立相談、エル・ソーラ仙台 就業自立相談「ミ・ソラ」)

- ・はじめに、参加者の今後のキャリアについて個人目標を設定した。また、参加者それぞれの状況に合わせて、個別学習期間中も継続的にキャリアカウンセリングを実施し、サポートを行った。事業終了後には、今後のキャリアなどについてカウンセリングを行った。
- ・就業上のキャリア目標を明確に設定できない参加者については、自身の興味関心等をもとに学習カウンセリングを行い、当面の学習目標を定めて学習支援を先行した。

② 学習カウンセリングの実施

(担当：一般財団法人学習能力開発財団)

- ・①で設定したキャリア目標に向けた学習目標・計画を作成し、教材を選定した。学習の進捗やキャリア目標の変化などに合わせ、事業開始後も随時柔軟に対応した。
- ・開始時点の学力レベルを測定するため、学習目標に合わせてカスタマイズしたテストを実施。事業終了後にも同じテストを行い、学習効果を測定した。

③個別学習支援の実施

(担当：一般財団法人学習能力開発財団)

- ・基本的には参加者2名に対し講師1名で実施。1名に講師がついている間、もう1名は自習をする形で学習を進めた。
- ・ひとりひとりの特性に合わせて、学習の手法を工夫した。

場 所：エル・ソーラ仙台

回数等：月2回程度／1回あたり110分

期 間：2018年度 2018年9月～2019年2月（6ヵ月間）

2019年度 2019年8月～2020年2月（7ヵ月間）

※学習期間はそれぞれの参加申込の時期により異なる。

④事業評価測定のための学習意欲・自己肯定感等のアセスメントの実施

(担当：事務局)

- ・本事業を通して、参加者の学習意欲、自己肯定感、就業意欲がどのように変化するのかをチェックシートを使用し検証した。
- ・測定は、事業開始時、事業実施期間の中間、事業終了時に実施し、変化を検証した。

⑤学習環境の整備

- ・希望者には託児サービスを提供し、子育て中の参加者が参加しやすいようにした。
- ・DVや性暴力の被害経験があることを想定し、キャリアカウンセリング担当者、学習支援者、事務局全てに女性を配置して参加者が安心して参加できる環境を整えた。

⑥連絡会議の開催

- ・キャリア支援担当者、個別学習支援担当者の連絡会議を隔月で開催し、対象者の背景やそれぞれの支援状況を共有した。

(7) 事業終了後のサポート

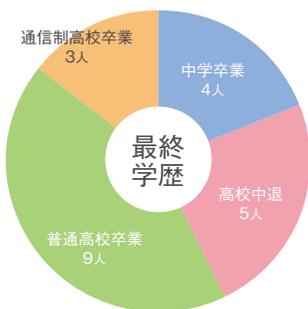
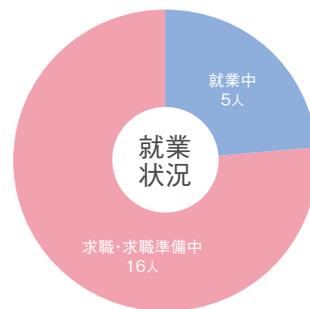
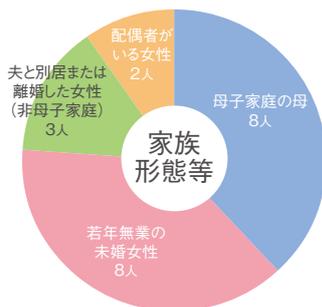
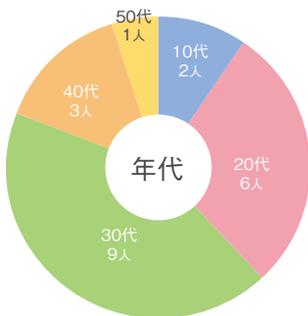
本事業は、学び直しを通じたキャリア形成の最初の一步を伴走型の学習支援で後押しするものであった。事業終了までに個別目標が達成できない場合でも、キャリアカウンセリングを継続して行い、一人ひとりのキャリア目標が達成されるよう支援を継続している。

参加者数 21 名

2018 年度：13 名

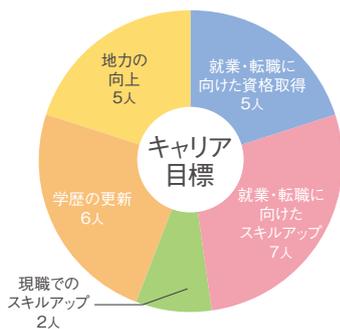
2019 年度：12 名（うち 4 名が 2018 年度から継続）

※【年代】【家族形態等】【最終学歴】【就業状況】は、事業参加時の状況



【最終学歴】

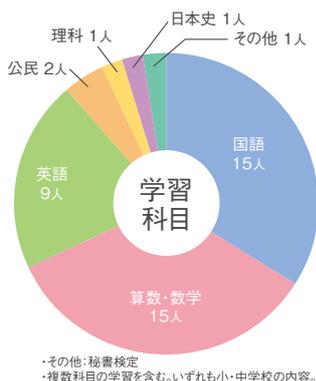
- ・「中学卒業」の中には、小学校から不登校で、その後の就学経験が無い人もいた。また、普通高校や通信制高校を卒業していても、本事業で実際に学習している内容は小・中学校レベルであり、学力と学歴に乖離が見られる。



【キャリア目標】 ※ 2年間の延べ数

- ・「就業・転職に向けた資格取得」：准看護師養成の専門学校の受験、秘書検定、漢字検定等
- ・「就業・転職に向けたスキルアップ」：職場での報告書の書き方、上司への報告、接客のための英会話等
- ・「学歴の更新」：高校卒業程度認定試験の受験
- ・「地力の向上」：子どもの入学に関する説明資料の読み込みや、消費税の計算、割増しの概念など就業や日常生活に必要な力

※上記のような日常生活を円滑に行うための力のことを『地力』と名付けた。こうした基礎学力の不足が、就業だけでなく日常生活にも影響を及ぼしており、そのことによる職場でのつまづき体験が自己肯定感を更に低下させ、就業を困難にしているケースも見られた。



【学習科目】 ※ 2年間の延べ数

- ・国語を学習した人が全体の約3分の1に上った。職場での報告書の書き方や、言葉遣い、コミュニケーションなど、日常生活を送る上での課題を学習科目に変換した結果、国語の学習につながったものである。

(1) 幼少期からの教育におけるジェンダー格差

- ・参加者の中には、きょうだいが多く、経済的な理由で男兄弟の進学が優先され、本人は高校に進学できなかった方や、親が弟には家庭教師をつけるなど教育熱心だったが本人に対しては無関心だった方など、きょうだい間のジェンダー格差により学びから遠ざかったケースが見られた。親の意向できょうだいの中でも男子は4年生大学に、女子は短期大学に進学するなどのケースも未だに聞かれる。親世代の子育てにおけるジェンダー意識が、子どもの人生に長期的に影響を及ぼしていることがうかがえる。

(2) 母子家庭の母

- ・子育て、介護、仕事など、いくつもの役割をひとりで背負っているため、非正規雇用から安定した仕事にキャリアアップしたくても、目の前の生活がいっぱいいっぱいで自分のために使う時間がない。
- ・また、養育費や慰謝料の調停中であるケースも見られ、精神的な負荷も大きい中で生活をしている現状がある。

(3) 若年無業の未婚女性

- ・本事業に参加した若年無業の未婚女性のほとんどは、小中学校からの不登校や引きこもりを経験していた。引きこもりの状態にあっても、社会的にも家族からも「家事手伝い」とみなされ、社会的支援からこぼれ落ちている現状がある。不登校により、学びの経験が他の人よりも少ないことを負い目に感じ、自己肯定感を低下させているケースも少なくなかった。
- ・不登校であったからといって学習意欲がない訳ではなく、過去の自分の「穴」を埋めたいと語った参加者もいた。不登校児の割合が増え続けている今、学校教育に馴染むことができなかつた人が、その後の人生でいつでも“学び直し”ができる環境を整えていく必要がある。

(4) 基礎学力の不足

- ・消費税の計算、時間の計算など、基礎学力の不足自体が生きづらさや働きづらさに直結している人も見られた。特に、「読解力」の未熟さは、文章理解だけではなく、人との会話にも及ぶため、コミュニケーションや、対人関係の苦手意識にもつながっていることが伺えた。

(5) からだや心の不調

- ・虐待やDV、性暴力被害など様々な傷つきから、からだや心の不調を抱えている参加者も少なくなかった。
- ・経済的自立の方法として性的搾取の被害につながる可能性のある職業などを選択すると、様々なりすくにさらされやすく、更に心身の不調につながることも懸念される。

(6) 女性特有のジェンダー意識に起因する「揺らぎ」

- ・夫や家族の都合を優先し、自分のキャリアや踏み出す時期をなかなか決められない、仙台で就業に向けた準備をしていたにも関わらず、元のパートナーからの誘いがあり、地元に戻ることを考えている、という参加者もいた。女性の自立に向けたキャリア形成を考える際、妻や母は自分のことより家族を優先すべきという意識や、収入面や精神面での不安定さによる男性への依存など、女性特有のジェンダー意識に起因する「揺らぎ」があることも理解しておく必要がある。様々な状況や条件がある中で、女性たちが自分で自分の人生を選択していけるように、寄り添いながら長期的な視点で見守ることが重要である。

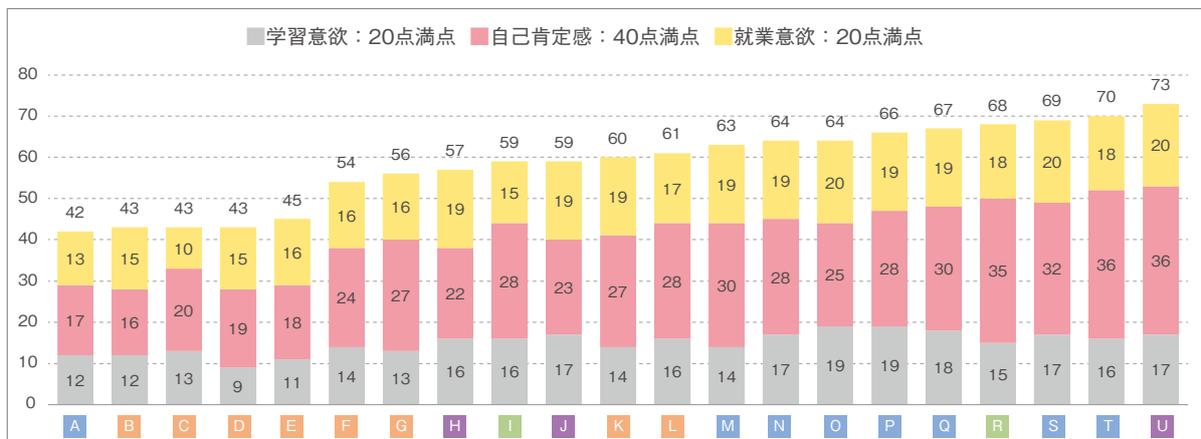
(7) 様々な葛藤

- ・他者から期待され、自分自身もとらわれている「母役割」と、一人の人間としての「わたしがやりたいこと」との狭間の葛藤や、自分に自信を持ち、社会とつながっているように見える同世代の女性たちと、そうではない自分との比較による落ち込みなど、様々な心の葛藤が見られた。
- ・特に、生活保護を受給している場合、ケースワーカーや支援者からの助言を契機に、長期的な目標や希望のために時間を使うことと、自立に向けてすぐに就業することとの間で揺れ動く傾向が見られ、学習を中断するケースも見られた。

(1) 学ぶ意欲の向上による自己肯定感の高揚

- ・各参加者の学習意欲・自己肯定感・就業意欲が、事業を通してどのように変化するか、チェックシートの点数の推移から検証した。
- ・チェックシートでは、学習意欲と就業意欲をそれぞれ5問で20点、自己肯定感を10問で40点とし、合計80点満点で点数化した。

【事業開始時の状態】



※C、G、P、Qは2018・2019年度継続受講。

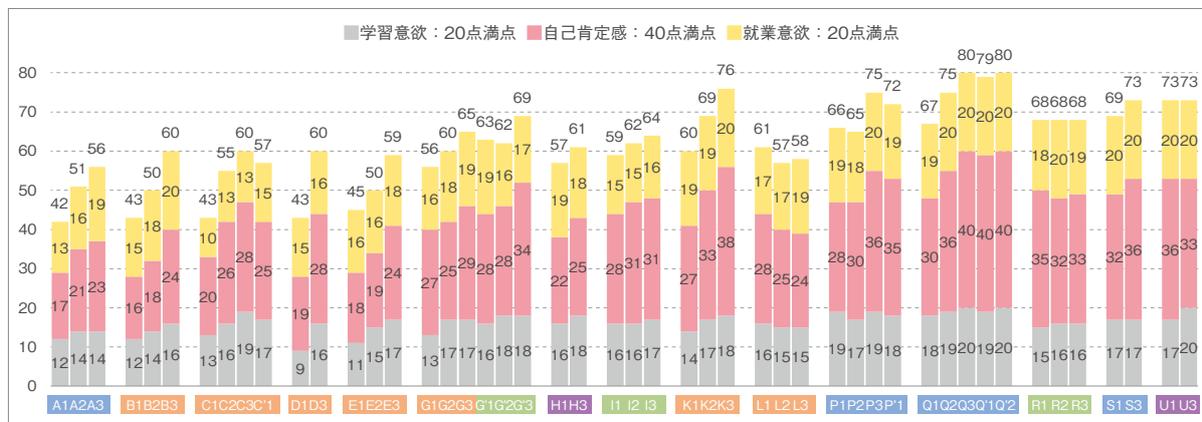
※若年無業の未婚女性は10～30代、母子家庭の母は20～50代、夫と別居または離婚した女性(非母子家庭)は20～40代、配偶者がいる女性は20～40代であった。

■ 若年無業の未婚女性 ■ 夫と別居または離婚した女性（非母子家庭）
■ 母子家庭の母 ■ 配偶者がいる女性

図表1 チェックシート点数（事業開始時）

- ・事業開始時には、概ね若年無業の未婚女性は学習意欲・自己肯定感・就業意欲がいずれも低く、総点数も低い傾向が見られ、母子家庭の母は高い傾向が見られた。

【学習意欲・自己肯定感・就業意欲の変化】



※C、G、P、Qは2018・2019年度継続受講。2019年度についてはそれぞれC'、G'、P'、Q'と表記。

※アルファベット1＝事業開始時、アルファベット2＝中間、アルファベット3＝事業終了後

※本報告書作成時点で2回以上実施した人のみ掲載

若年無業の未婚女性

母子家庭の母

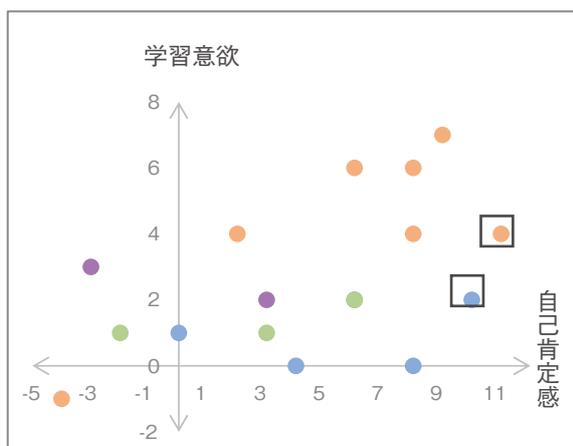
夫と別居または離婚した女性（非母子家庭）

配偶者がいる女性

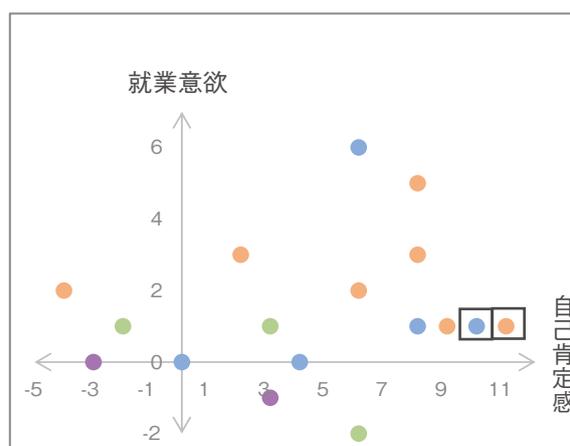
図表2 学習意欲等の変化（チェックシート点数）

- ・事業開始時、事業実施期間の中間及び終了時に同内容のチェックシートによる測定を実施したところ、概ね上昇傾向が見られた。
- ・2018・2019年度継続して受講した4名（C、G、P、Q）の2018年度の事業終了時（C3、G3、P3、Q3）と2019年度事業開始時（C'1、G'1、P'1、Q'1）を比べると、それぞれ若干の下降が見られたが、2018年度の事業開始時（C1、G1、P1、Q1）よりは上昇していた。ある程度長期的に支援を継続することで、更に事業効果が上がることが実証された。

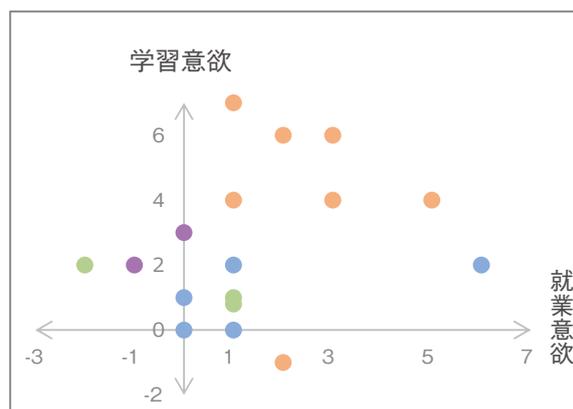
【学習意欲・自己肯定感・就業意欲の関連性】



図表3 ポイント数の変化 [学習意欲×自己肯定感]



図表4 ポイント数の変化 [就業意欲×自己肯定感]



図表5 ポイント数の変化 [学習意欲×就業意欲]

- 若年無業の未婚女性
- 母子家庭の母
- 夫と別居または離婚した女性（非母子家庭）
- 配偶者がいる女性

※ポイント数は、チェックシートの最後の実施時の点数－事業開始時の点数

- ・母子家庭の母と比べて、若年無業の未婚女性は事業開始時の点数がいずれも低かったため、ポイント数の伸び率が大きかった。
- ・学習意欲・自己肯定感・就業意欲は相互に関連しており、学習意欲の向上が自己肯定感・就業意欲に影響を与えていると推察される。特に、学習意欲と自己肯定感については、相関が顕著に見られた。
- ・自己肯定感の上昇が特に大きかった2名（図表1・2のK・Q／図表3・4□囲み）について、下記のような好影響が確認できた。

ケース1

准看護師を目指すシングルマザー（Q）

当初、2019年度に准看護師専門学校を受験する予定だったが、学習が順調に進んだことからチャレンジの意味も込めて2018年度に受験を繰り上げた。結果は不合格だったが、学習を継続。2019年度に再チャレンジし、合格することができた。

ケース2

若年無業の未婚女性（K）

2018年度の事業参加中に就業自立支援施設が実施するインターンを経て企業に就職（契約社員）。キャリア相談を継続していくうちに、色彩関係の資格にも興味を持ち始め、将来のキャリアチェンジまで視野を広げることができてきている。2019年3月に正社員登用。放送大学入学も視野に入れ、自分のペースで学びを続けている。

- ・事業開始時の若年無業の未婚女性の点数が低い（図表1・2参照）理由として、引きこもりや不登校の経験、周囲からの否定的な反応などにより自己肯定感が低く、それに伴って学習・就業意欲も低いことが考えられる。一方、母子家庭の母は、結婚・出産、就業等の経験により比較的自己肯定感が高いと考えられる。いずれのケースも、学習意欲の向上が自己肯定感の高揚や就業意欲の向上につながり、キャリア選択の幅を広げ、ステップを踏んでいくきっかけとなり得ることが実証できた。

(2) 専門的機能の連携

①実施主体間の連携：仙台市男女共同参画推進センターと仙台市母子家庭相談支援センター

- ・男女共同参画推進センターと母子家庭相談支援センターが連携してキャリアカウンセリングを担当することで、参加者の状況に応じて、就業等だけでなく参加者の背景にある困難を踏まえて総合的に支援することができた。
- ・男女共同参画センターや母子家庭相談支援センターは、女性の困難な状況や直面する課題を顕在化できる場であり、特に男女共同参画センターは女性相談機能を中心に、地域の支援者とも連携しながらジェンダーの視点で当事者の支援を行うことができる。各地で同様の事業を展開する際にも、中核として役割を担えるリソースやネットワークを持っていると考える。

②実施主体間の連携：キャリアカウンセリング担当者と学習支援担当者

- ・本事業のキャリアカウンセリング担当者と学習支援担当者の連絡会議を隔月で実施した。対象者の背景や抱えている課題等を共有し、対象者への理解を深め、必要な支援を行うことができた。例えば、問題が解けるようになったという事実だけではなく、解くことができた問題でも、これまでは「難しかった」と語っていた参加者が、徐々に自信を持って「できた」と言えるようになったケースがあった。学習支援者が感じた小さな変化から、参加者の自己肯定感の高揚を共有し、次の支援につなぐことができた。
- ・一人の対象者に対し、複数の支援者がそれぞれの専門性をもって様々な切り口で支援することで、効果的な支援となるとともに、参加者の安心感につながった。
- ・情報交換する中で、学習支援者は様々な女性の困難について知識を深めることができ、キャリアカウンセリング担当者は学習を切り口に見た対象者の特性（特に発達障害に関する特性）を知る事が出来るとともに、各種専門学校の入試状況や認定試験についての情報を得る機会となった。

③各支援団体との連携

- ・本事業は、参加者の募集に際し、各支援団体への情報提供を行い、対象者への声掛けと参加への後押しをお願いした。特に2019年度は情報提供に力を入れたことから、支援団体からの紹介による参加が多かった。対象者の生活面の支援をしている団体と連携をとることで、対象者を多面的に支援することができた。（詳細は「7 学びの入り口への誘導 (p.18～)」参照）

(3) 子どもの教育への好影響

- ・小学生の子どもがいる参加者からは、これまで勉強が嫌いだったので子どもの勉強に関心がなかったが、自分が勉強している姿を見せることで、子どもも自然と隣で宿題をするようになったとの報告があった。また、中学生の子どもがいる参加者からは、子どもと教え合いながら、一緒に勉強する時間を取っているとのお話も聞かれた。母親が目標に向かって努力する姿に接することが、子どもの学習意欲にも大きな影響を与えていることがうかがえる。
- ・母子家庭の母からは、小学校高学年の娘が自分の将来について考え、そのために進学したい高校を決めたという話が聞かれた。自立に向けて努力する母親の姿を見て、自分の将来のキャリアについて考えるようになったと考えられ、子どものキャリア観の醸成にもつながったことがうかがえる。

(1) 対象者へのアプローチ

- ・参加者の募集の際、対象者に本事業の情報を届けることが困難であった。インターネット等外部からの情報収集のツールや自ら支援情報にアクセスできる環境・状況にない対象者も多く、ホームページやSNSではなく、信頼できる関係性の第三者から情報を届ける必要がある。また、情報が届いても10代で十分な学びの経験を積めなかった対象者にとって、「学ぶ」こと自体に抵抗がある場合も多く、学び直しの事業に自ら足を踏み入れることは稀である。
- ・エル・ソーラ仙台や仙台市母子家庭相談支援センターでキャリア相談等を既に利用している人については、スタッフや相談員との信頼関係が構築できているため、スムーズに事業参加への誘導ができた。同様に対象者と接点があると思われる女性支援団体や子ども支援団体との連携が必要であり、支援者に対し、学び直しがどのように本人のキャリア形成に役立つか、また、安心して通える環境であることなどを丁寧に説明することが重要である。
(詳細は「7 学びの入り口への誘導 (p.18 ~)」に記載)

(2) 深刻な状況下にある参加者の増加と支援団体との連携

- ・2019年度は(1)のアプローチの結果、支援団体経由の参加申し込みが多く、これまでセンターとつながりのなかった、より困難な状況にある参加者が増加した。生活保護を受給している人、DV被害を受けて夫から逃げている人、自立支援施設に入所している人、性的搾取の被害につながる可能性のある仕事からの脱却を目指す人など、様々な困難が複合的に見られた。支援者を通じて潜在化していた対象が掘り起こされた結果とも言える。
- ・対象者の支援にあたり、様々な支援団体と連携を図ったが、団体によって事業実施中の対象者に関する情報共有の度合いは様々であり、対象者の希望なども考慮しながら状況に応じた対応が必要であった。
- ・参加者21名のうち、10～40代の7名が生活保護を受給していた。生活保護受給者の場合、ケースワーカーによる就業指導と、当センターのキャリアカウンセリングを同時に行っているケースがある。中には、キャリアカウンセリングで適性を探っている間に、ケースワーカーに促され就職活動を始めたが、就業には結びつかなかったケースも見られた。また、学習支援により専門学校に合格後、どのように学費を捻出するかなど、新たな課題も出てきた。様々な社会支援制度や、それらと生活保護の関係など、福祉についての専門知識も必要となるため、福祉関係の制度に詳しい関係機関との連携も必要である。

(3) 若年層へのリプロ教育の重要性

- ・参加者の中には、性暴力の被害者もあり、心理面や体調面で不安を感じながら学んでいた。そのような状態の場合、まず生活リズムを整えるところから始める必要があるため、学習も途切れがちであり、コンスタントに学習回数を重ねることが難しい。
- ・また、自己肯定感が低下していると、自分の身体を大切にできる意識も乏しくなる。特に若年無業の未婚女性については、学習支援だけでなく、性や身体を含めて自分を大切に、自分らしく生きるために、リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて伝えていく必要性がある。

(4) 学習継続が困難なケース

- ・2018年度、2019年度ともに学習継続が困難となり、途中終了する人が数名いた。多くが母子家庭の母であり、本人や子どもの体調不良や家族の介護などが原因で学習を続けることが困難な状況に陥っていた。いくつもの役割を一人で背負っている母子家庭の母が、仕事や生活と両立させながら学習を続けることの困難さも実感した。また、他者から期待され、自分自身もとらわれている「母役割」のジェンダー意識から抜け出すための働きかけも必要である。
- ・生活保護を受給していたり、母子支援施設やシェルター等に入居しているなど、生活基盤が安定しない人ほど学習の継続が困難であった。

(5) 支援者側のジェンダー意識

- ・前述のとおり、ケースワーカーや支援者からの助言を契機に、長期的な目標や希望のために時間を使うのではなく、自立に向けてすぐに就職活動を始めたが、結果的に就業に結びつかないケースもあった。自己肯定感が落ちていると、支援者の言動に敏感になり、参加している女性たち自身がとらわれているジェンダー意識ともあいまって、支援者の意図とは異なった受け取りをすることもある。行政組織、NPOなどの支援者は、ジェンダーに敏感な視点で、本人が自ら決定する力を引き出し、再チャレンジを支援することが重要である。

「6 課題 (1) 対象者へのアプローチ」で触れたとおり、対象者を本事業に誘導するにあたり、対象者と接点があると思われる支援団体への情報提供と参加への後押しをお願いした。2018 年度、2019 年度それぞれの取り組みは以下の通りである。

(1) 2018年度の取り組み

- ・2018 年度は事業実施初年度であったため、参加者の募集の際には、チラシによる事業趣旨や概要の提示にとどまった。
- ・主な情報提供先は、DV・性暴力被害者支援団体、引きこもり当事者支援団体、就業支援団体、子育て支援団体、市の福祉窓口担当課などで、各団体に個別に情報提供した。
- ・情報提供した団体の中には、対象者が思い当たるとの反応もあったが、実際には参加に結びつかないケースもあった。

(2) 2019年度の取り組み

- ・2019 年度は、前年度の経験から、地域の支援機関・支援団体にいかに本事業の意義を理解してもらい、各団体の支援対象者やその周辺の方の中で、当事業の対象となりそうな方をイメージしてもらえるかが鍵になると考えた。そこで、学びの入り口への誘導として、情報提供する支援団体を増やすとともに、支援者への働きかけに重点を置いた。主な取り組みは以下の3点である。

①若年女性支援情報交換会

- ・情報交換会と合わせて講話「女性刑務所に見る女性の困難」と本事業の情報提供を行った。若年女性支援に資する講話を組み込むことで、支援団体の情報交換会参加の動機づけとするとともに、本事業の対象者の背景理解やジェンダー視点の共有につながった。
- ・DV・性暴力被害者支援団体、被災地相談支援団体、生活困窮者支援団体、引きこもり当事者・家族支援団体、社会的養護アフターケア事業実施団体、子ども食堂主宰団体など、19 団体 28 名の参加を得た。

②仙台市保護課・家庭健康課、民生委員生活援護部会へアウトリーチによる情報提供

③対象者に合わせたチラシの作成

- ・若年女性支援団体のアドバイスを受け、若年無業の未婚女性が不安を感じにくい文面に作り替えたチラシを作成した。〔「キャリア」という単語を使わない、具体的に何をするのかを明記するなど〕

[母子家庭の母用]

自立を目指す女性のための“学び直し”を通したキャリア支援事業「まなキャリア」

2019年度

あなたのペースで もう一度 学んでみませんか？

安定した仕事につくために資格を取りたいけれど、勉強の仕方が分からない…。

将来のことを考えると、今何をすればいいのかわからない不安になる。

学生時代にやり残した勉強をして、自信をつけたい。

ひとりひとりに合わせた個別学習を通して、勉強の仕方を学び、一歩前へ進んでみませんか？

スタッフが、あなたの「これから」をサポートします。

対象：学び直したいと考えている、就業・転職を目指す女性（最終学歴が高校卒業までの方）

定員：16名程度 **参加費**：無料

申込期間：2019年12月まで（先着順）

※未就学児の託児を希望する場合はご相談ください。

事業の流れ

○ガイダンス
事業についての説明、個別学習について希望の曜日や時間帯などのヒアリングを行います。参加にあたっての不安も解消！

↓

○キャリアカウンセリング
仕事や将来のことについて、相談員と一緒に考えます。

↓

○学習カウンセリング
ひとりひとりの目標や希望に合わせてどんな科目をどんな方法で学習するかを決めます。

↓

○個別学習
場所：エル・ソーラ仙台 ※1～3名対講師1名
回数等：月2回程度/1回あたり110分
期間：学習カウンセリング後～2020年2月まで

↓

○キャリアカウンセリング
今後に向けた一歩を一緒に考えます。

興味のある方は、お気軽にご連絡ください。担当がお話をおうかがいします。

【問い合わせ】（公財）せんだい男女共同参画財団 「まなキャリア」担当：阿部

TEL：022-212-1627 FAX：022-212-1628

Mail：sola3@sendai-l.jp

文部科学省 令和元年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業における実証事業」として実施します。

[若年無業の未婚女性用]

自立を目指す女性のための“学び直し”を通したキャリア支援事業「まなキャリア」

2019年度

あなたのペースで もう一度 学んでみませんか？

将来のことを考えると、今何をすればいいのかわからない不安になる。

今後のために資格をとりたいたけれど、勉強の仕方が分からない…。

学生時代にやり残した勉強をして、自信をつけたい。

ひとりひとりに合わせた個別学習を通して、勉強の仕方を学び、一歩前へ進んでみませんか？

スタッフが、あなたの「これから」をサポートします。

対象：生きづらさ・働きづらさを感じている女性（最終学歴が高校卒業までの方）

定員：16名程度 **参加費**：無料

申込期間：2019年12月まで（先着順）

事業の流れ

○ガイダンス
事業についての説明、個別学習について希望の曜日や時間帯などのヒアリングを行います。参加にあたっての不安も解消！

↓

自身の棚卸して苦手なことや苦手でないことを確認したり、ひとりて考えると不安になってしまう「これから」のことについて、相談員と一緒に考えます。

↓

○学習カウンセリング
生きづらさを解消したり、自信を取り戻すために、どんな科目をどんな方法で学習するかを、ひとりひとりの状況にあわせて決めます。

↓

○個別学習
場所：エル・ソーラ仙台 ※1～3名対講師1名
回数等：月2回程度/1回あたり110分
期間：学習カウンセリング後～2020年2月まで

↓

○振り返り
今後に向けた一歩を一緒に考えます。

興味のある方は、お気軽にご連絡ください。担当がお話をおうかがいします。

【問い合わせ】（公財）せんだい男女共同参画財団 「まなキャリア」担当：阿部

TEL：022-212-1627 FAX：022-212-1628

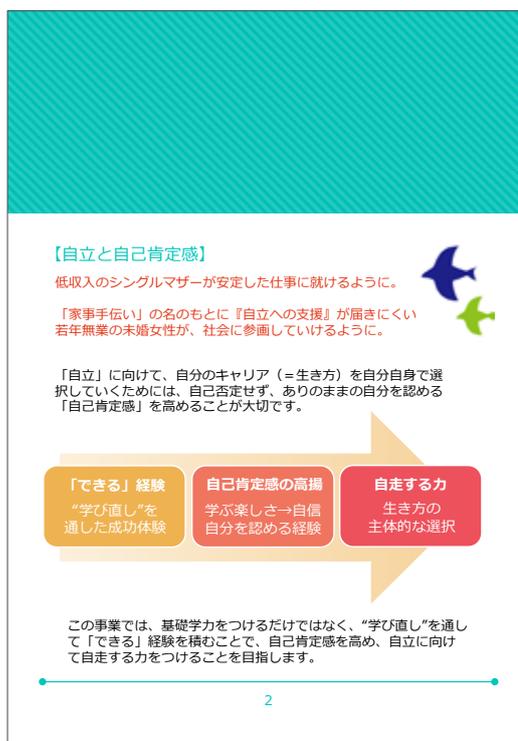
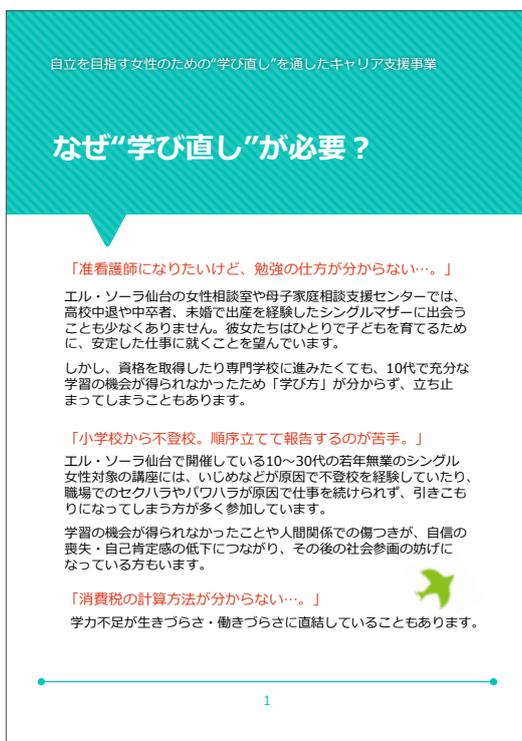
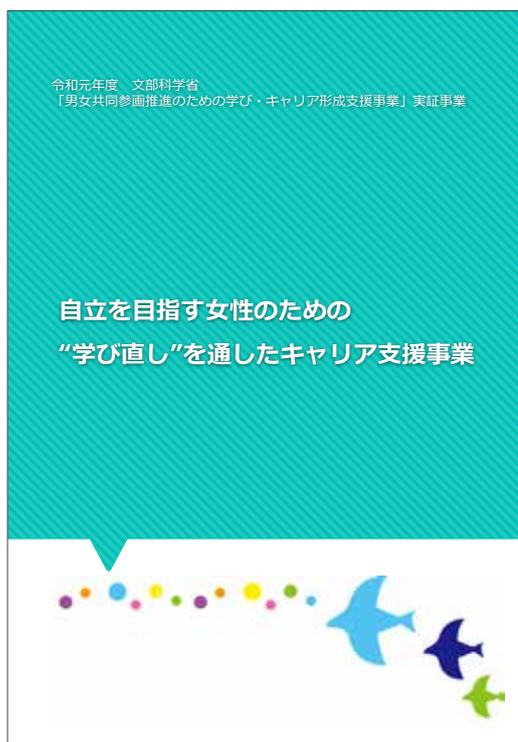
Mail：sola3@sendai-l.jp

文部科学省 令和元年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業における実証事業」として実施します。

④事業紹介冊子の作成

- ・ 支援団体等への情報提供にあたっては、事業内容の理解促進のためのツールとして事業紹介冊子を作成した。
- ・ 昨年度の成果や参加者の声を盛り込み、対象者イメージを具体化した。

[事業紹介冊子の一部]



- ・ どんな対象者がどのような内容の学習をしているのか、どのような流れで事業が行われているのかが具体的にイメージできるとともに、支援団体から支援団体への情報共有が行われるケースも見られ、その有効性が実証できた。

本事業の対象者のように困難な状況にある女性は、仙台市のみならず全国各地に存在している。このような女性たちを対象に同様の事業を展開する場合には、男女共同参画センターが主体となり、地域資源と連携しながら進めることが有効である。その際に留意すべき点を挙げる。

(1) キャリアカウンセリング

① キャリア支援者に必要な視点

- ・母子家庭の母のキャリアカウンセリングを担当した仙台市母子家庭相談支援センター 就業自立相談と、母子家庭の母以外のキャリアカウンセリングを担当したエル・ソーラ仙台 就業自立相談「ミ・ソラ」は、エル・ソーラ仙台 女性相談と密接に連携を図り、参加者を総合的に支援した。
- ・本事業のような複合的な困難を抱える女性を支援する上で、キャリア支援者に必要な視点として下記が挙げられる。

■性別役割分担意識を固定化しないよう配慮することができる。

■就職することだけを目標とせず、キャリア＝人生と捉え、長期的な視点で支援できる。

■それぞれの職業観、働き方、就職活動のペースを支援し、ひとりひとりの自立的な判断による職業選択を後押しすることができる。

■参加者の困難な状況に寄り添い、困難の背景も含めた総合的な支援をすることができる。

- ・仙台市のように母子家庭相談支援センターを男女共同参画の推進に資する団体が運営しているケースは全国的に珍しい。また、男女共同参画センターの女性相談で就業相談を行っている所もそれほど多くはない。他地域で展開する場合、キャリアカウンセリングを担当する機関と連携することになると思われるが、その場合、上記視点を持って対応してもらうよう働きかける必要がある。

② キャリア目標の設定に要する期間

- ・参加者のうち、本事業開始前から、母子家庭相談支援センター等でキャリアカウンセリングを受け、既にキャリア目標が定まり、学ぶ意味を意識できた人は、学習意欲や就業意欲の向上、自己肯定感の高揚が他の参加者より早く現れ、上昇ポイント数も大きかった。キャリア目標の設定にかかる時間は人それぞれではあるが、キャリアカウンセリングを重ね、一定程度時間をかけることも重要な視点である。
- ・キャリア目標の設定やその実現にかかる時間は、参加者の成育歴・環境等により個人差が大きいため、事業期間内にキャリア目標が明確にならなかった参加者についても、通常のキャリアカウンセリングで継続して支援する必要がある。

③ひとりひとりの状況に合わせた柔軟な対応

- ・参加者によっては、既にキャリア目標が明確である人もいれば、すぐに就業できる状態ではなく、将来への漠然とした不安を抱えている人もいる。本事業は、キャリアカウンセリングでキャリア目標を設定し、その目標に近づくための学習を行うという流れを想定していたが、参加者の状況に合わせて、先に興味関心のある科目や克服したい苦手科目の学習を進め、並行してキャリアを考えていくという順序に変更するなど柔軟な対応を行った。事業の流れについても、参加者の背景や状況に合わせた柔軟な対応が求められる。

④若年無業の未婚女性にとってのキャリアカウンセリング

- ・若年無業の未婚女性の中には、引きこもりなどにより社会から離れている期間が長く、精神疾患を抱えている方もおり、就業としてのキャリア目標を立てることは難しいケースもあった。また、これまで学ぶ機会を逸してきたことに対するコンプレックスを抱えていることがうかがえる人もいたが、相談員とともに過去を振り返り、人生の棚卸しをすることで、学びが自分にとってどんな意味があるのか考える機会になった。同じキャリアカウンセリングでも、受ける側の状況によって、多様な意味を持つことを理解しておく必要がある。

(2) 学習支援

①学習支援者に必要な視点

- ・本事業では、学習支援を一般財団法人学習能力開発財団の協力を得て行った。同財団は、震災遺児の学習支援や、発達障害児の学習支援を行っており、ひとりひとりに寄り添った個別指導の実績があり、本事業においても個別のケースに合わせた柔軟な対応をすることができた。本事業のような複合的な困難を抱える女性を支援する上で、学習支援者に必要な視点として下記が挙げられる。

- 様々な傷つき体験から自信を喪失している状況を十分に理解し、寄り添うことができる。
- 学ぶことが女性の自立に向けた力になることを理解している。
- 学力レベルの自己認識と実力に乖離があることを理解し、柔軟に学習計画を変更できる。
- 受験テクニックを教えるのではなく、学び方を伝え、学ぶことの楽しさを教えることができる。
- 本人が認識しているか否かにかかわらず、発達障害や精神疾患を複合的に抱えている対象者もいることを理解し、それぞれが理解しやすい学び方を提供することができる。
- 「できない」ことも含めてあるがままの姿を認め、否定せず、受け入れることができる。

他地域で同様の事業を展開する際には、学習支援者に対して研修プログラムを実施するなど、上記視点の必要性の共有が不可欠であると考えられる。

②スモールステップで成功体験を重ねる

- ・学習目標を設定する際、長期目標と1～2ヵ月毎の短期目標を設定し、スモールステップで成功体験を重ねることで、学ぶことの楽しさを実感してもらった。成功体験の積み重ねと、できるようになったことのフィードバックにより、自己肯定感を高めることができると考えられる。

地域によって社会資源は異なるため、それぞれの地域に合った組織・団体と連携し、専門性を組み合わせることで、困難な状況にある女性たちの支援が可能になる。

義務教育課程や高等学校において、基礎学力をつける機会を逸すれば、学校教育の中で「学び直し」をする仕組みは今のところない。

本人の学歴や置かれている環境に関わらず、「学び直し」をしたいときに「学び直し」ができる環境が整っている社会であるために、本事業の経験が少しでも役立てば幸いである。

自立を目指す女性のための
“学び直し”を通じたキャリア支援事業
2018～2019年度 報告書

発行日：2020年3月

編集・発行：公益財団法人せんだい男女共同参画財団
〒980-6128

宮城県仙台市青葉区中央 1-3-1 AER29 階

TEL：022-212-1627 FAX：022-212-1628

<https://www.sendai-l.jp/>
